

学生および保護者の方へ

2020年度後期 対面・遠隔授業に関するアンケート結果を受けての大学の取組み

大同大学 学長 神保睦子

2020年度の後期は依然として新型コロナウイルス感染拡大の収束の目途が立たない中での授業運営となり、前期に引き続いて学生の皆さんに大変なご負担をおかけしましたことをお詫びすると共に授業運営にご協力いただきましたことに心より感謝申し上げます。

後期は、前期に皆さんからいただきましたアンケート結果を踏まえ、基本方針として実習・演習系科目は対面式にて、講義系科目については前期に引き続き遠隔授業にて実施する併用式で授業を実施しました。

本学では、併用式授業および遠隔授業の課題と成果を把握すること、また今後の授業の在り方について継続して検討するために、以下の期間において後期の遠隔授業等に関するアンケート調査を実施しました。

【専任教員 非常勤講師】 アンケート回答期間 2/1（月）～2/22（月）

【学 生】 アンケート回答期間： 2/1（月）～2/22（月）

本学では、今回のアンケート調査の結果を真摯に受け止め、授業の改善に加えて、大学として何ができるかを継続して検討して参ります。以下に、後期のアンケート結果のまとめをお伝えします。

1. 遠隔授業運営について

①情報提供について

遠隔授業の情報提供に関しては、前期に引き続き「情報提供手段の統一」に関する要望が多くみられました。前期のアンケート結果から、授業担当者によって、teams、ポータルサイト、eメールと情報提供手段が異なることは、大学として大きな課題としながらも、改善にまで至らなかったことは申し訳なく思っております。アンケートでは、teamsを情報提供手段として希望する意見が多く見られることから、今後は大学としてteamsにて情報提供手段を統一する方向で検討して参ります。

また、ポータルサイトについても、利便性を向上させられるよう改善を進めて参ります。

②授業の内容・課題について

前期のアンケート結果から、後期は実験実習科目を中心とした実践科目については、対面式での授業運営を前提に実施し、講義系科目については、引き続き遠隔授業というハイブリッド形態で進めて参りました。遠隔授業は、原則リアルタイム形式ではなく、オンデマンド形式にて実施しました。

オンデマンド形式（映像音声配信あり）、オンデマンド形式（教材資料提示のみで動画配信なし）を比較すると、授業担当者とのコミュニケーションの観点（図1）および学習意欲、授業への集中度合の観点においても（図2）前期と同様に前者の映像や音声配信がある形式の方が良好であるという結果が出ています。

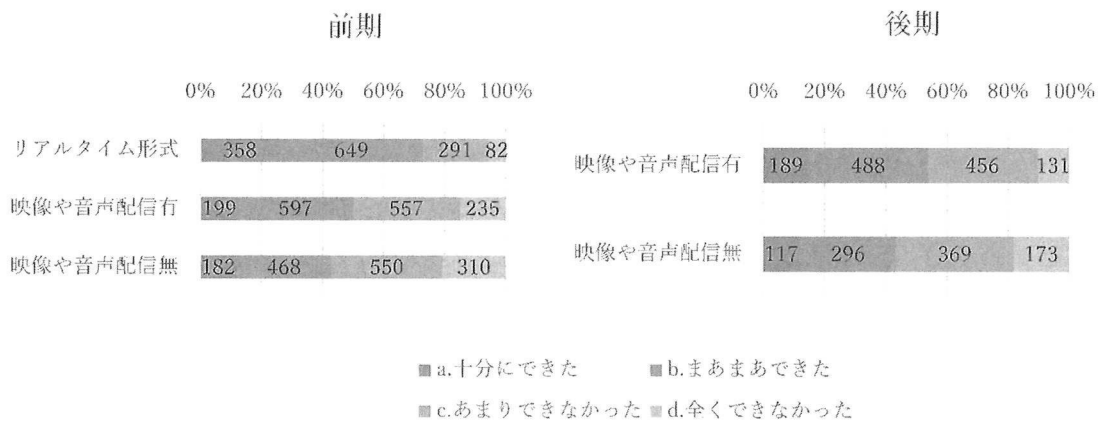


図1 「遠隔授業の場合、授業担当者とのコミュニケーションはどのように感じましたか？」の設問に対する回答結果

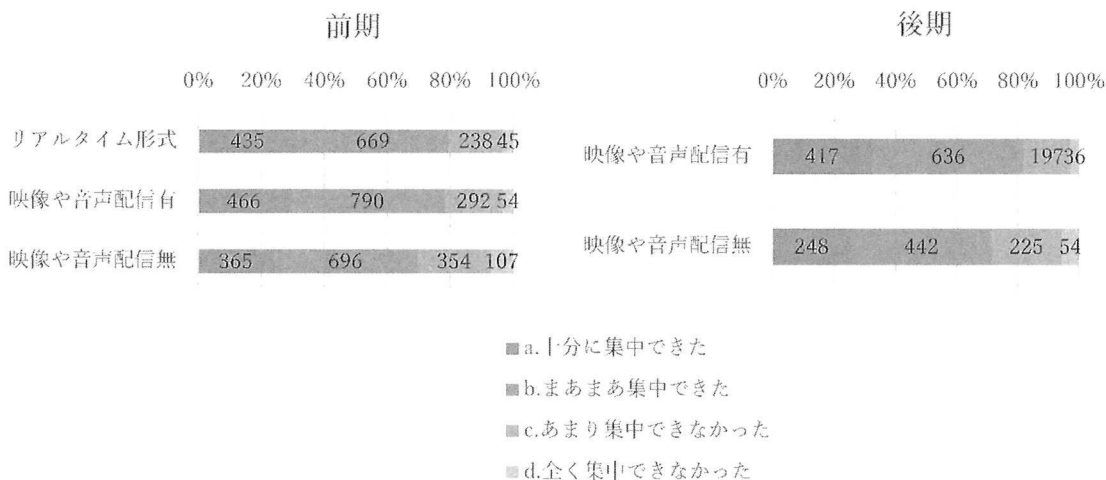


図2 「遠隔授業に集中できましたか？」の設問に対する回答結果

前期のアンケートでも同様の結果が得られたことから、本学では授業担当者に対して映像および音声配信ありでの遠隔授業を推奨して参りました。しかしながら、教材資料提示のみで動画なしの遠隔授業が、まだ一定数みられます。コミュニケーション、学習成果の観点からも、引き続き大学として遠隔授業では映像や音声配信によるオンデマンド形式を推奨して参ります。

また、課題提出の状況確認等についてもうまく対応できていない授業がありますので、併せて改善を進めて参ります。

③履修登録・履修ガイダンスについて

後期については、特に1年生を中心に対面式にて履修ガイダンスを実施しました。その結果、前期のアンケートではガイダンス未実施に対して不安があると回答した学生の7割以上について、後期では不安が解消したという結果となりました。一方で、上級生を中心に資料等の提示があればガイダンスを実施しなくて

も理解できるという意見も多くみられました。今後はコロナ禍の有無に関わらず、ガイダンスの実施方法について検討を進めていきます。

2. キャリア支援について

①就職活動を行っている学部4年生・大学院2年生

「就職活動において不安になったことはありますか」という前期と同様の設問に対し（図3）、就職活動に不安をもつと回答した学生の割合が5ポイント増加しており（回答 a+b：71.7%→76.7%）依然として未内定学生にとっての就職環境は厳しいものであったことが伺えます。その主な要因は、前期に引き続き、オンラインによる就職活動や企業の採用意欲の低減による求人数の減少など、主に就職環境の大きな変化でした。また、まわりの状況（友人の状況、企業の採用活動の状況等）がわからないなどの意見もありました。

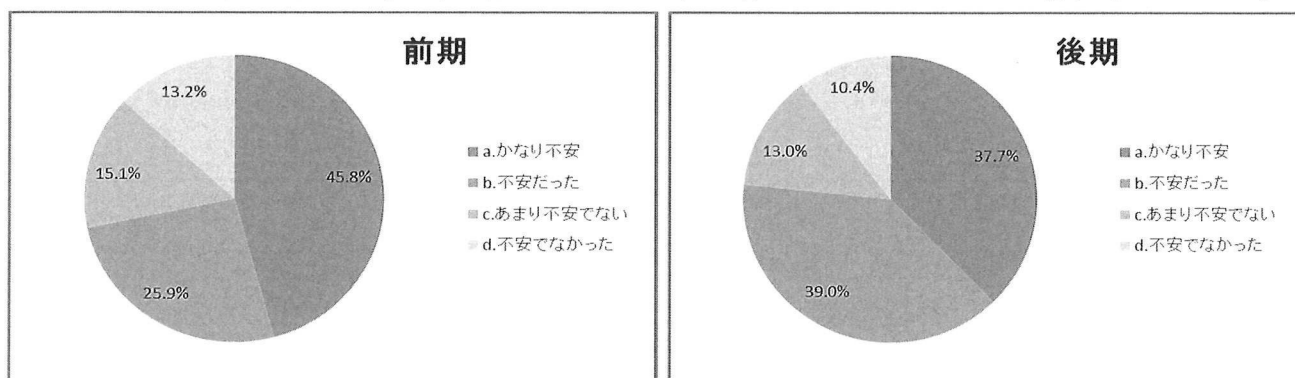


図3 「就職活動において不安になったことはありますか」の設問に対する回答結果（学部4年生・大学院2年生集計）

②学部3年生・大学院1年生の就職ガイダンスについて

前期のアンケートでは、対面でのガイダンスの実施を希望する声も聞かれましたので、後期からは、対面での就職ガイダンスを実施すると共に、その模様をオンラインで同時に配信しました。その結果、「就職ガイダンスを遠隔で実施しましたが、いかがでしたか?」という設問に対し（図4）、ガイダンスに肯定的な学生の割合が22ポイント増加しました（回答 a+b 32.2%→54.2%）。

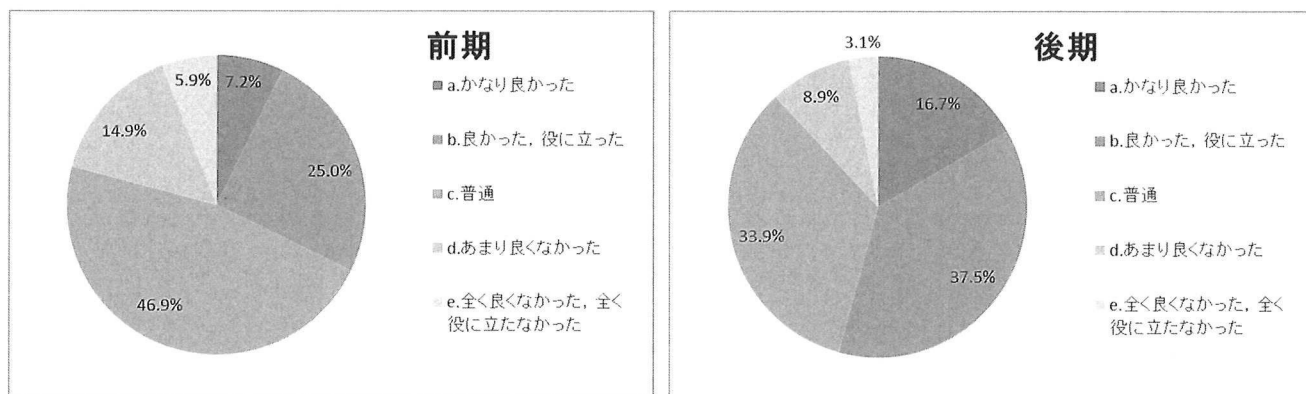


図4 「就職ガイダンスを遠隔で実施しましたがいかがでしたか」の設問に対する回答結果（学部3年生・大学院1年生集計）

この結果を受け、今年度においても対面での就職ガイダンスを実施すると共に、その模様をオンラインで同時に配信することを継続して参ります。なお、学生の将来を左右する就職関連の行事については、十分な感染症対策を講じながら、これからも、可能な限り対面式で実施できるよう努めていきます。

③学部3年生・大学院1年生の学内合同業界研究会の11月開催について

昨年度は、毎年2月に開催している合同業界研究会を11月にも開催しました。その結果、「学内合同業界研究会を早期(11月)にも開催しましたがいかがでしたか?」という設問に対して(図5)、7割(回答a+b:71.8%)を超える学生が肯定的な回答をしてきており、学生の早期の就職意識の向上に寄与していると考えております。今年度も11月と2月の分散開催を実施すると共に、OB・OG参加の業界研究会、特定分野に特化した業界研究会の開催など、更なる就職支援の向上に努めていきます。

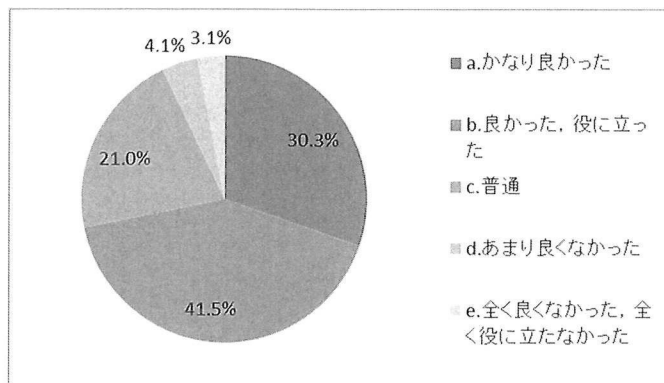


図5 「学内合同業界研究会を今年度は、早期(11月)にも開催しましたがいかがでしたか」の設問に対する回答結果(学部3年生・大学院1年生集計)

3. 施設利用について

入館制限を解除し、対面式を併用したことにより、図書館、体育館、演習室などをはじめとする施設利用に関する質問では、前期の施設を利用できなかったことに対する利便性の悪さに対する意見とは異なり、施設利用時の感染症対策に不安を感じるという意見が目立ちました。中でも、共用で利用するPC演習室に関する意見が多く、その主な内容はキーボードやマウスの除菌、隣席との間隔の狭さなどに不安を感じるといったものでした。今後も実験・実習については対面式での授業運営を考えていますので、各授業における消毒の徹底、演習室等での授業運営方法については、少しでも皆さんの不安を解消できるよう改善を進めて参ります。

4. 部活動、委員会活動、その他課外活動の制限について

部活動や委員会活動も感染対策を講じたうえで徐々に活動を再開してきました。その活動方法については、各団体が感染防止の観点からteamsによるミーティングの実施、活動場所の変更など、それぞれに工夫をしていただき、改めて感謝いたします。今後も大学としては、全てを中止にしまうのではなく、コロナ禍でも出来ること、出来るやり方を検討し、withコロナの考えのもとで進めて参ります。

5. まとめ

2020年度後期は対面授業と遠隔授業を併用したハイブリッド形態で授業を実施してきました。その結果、解消された課題もあれば、新たな課題もみえて参りました。学生の皆さんには今も制限のある中でのキャンパス生活をお願いしている状況であり、学生のみなさんの努力と協力のうえに、この困難な状況下において授業が成り立っていると感じています。大学としては、新たな課題を含め、まだまだ改善を進めなければならないことが山積していると痛感しております。このコロナ禍においても、最大限の努力をして、学生の皆さんに少しでも大学生として充実した日々を過ごしていただけるよう、2021年度も更なる改善に努めていきます。